

授業科目	歯科保健指導法		担当教員	松岡 円	
対象年次・学期	3年・通年		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	30回	時間数 60時間
授業目的	歯科衛生士ができる禁煙支援、要介護高齢者の全身疾患を考慮した指導方法を理解する。歯科衛生過程について理解を深める。				
到達目標	診療室で禁煙支援ができる。配慮を要する者への指導ができる。全身疾患患者の口腔保健管理ができる。対象者に応じた歯科衛生過程を作成できる。				
テキスト・参考図書等	<ul style="list-style-type: none"> 最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論」(医歯薬出版) 最新歯科衛生士教本「高齢者歯科」(医歯薬出版) 歯科衛生士のための禁煙支援ガイドブック(医歯薬出版) 口腔ケアの基礎知識(永末書店) 配布プリント 				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	80	定期試験 80% レポート 10% 実習・技能点 10%		
	レポート	10			
	小テスト	0			
	提出物	0			
その他	10				
履修上の留意事項	<p>講義と演習、講義と実習の同時進行。 決められた期日にレポートを提出する。 授業に使用する教材を忘れない。 歯科衛生士としての診療室のマネジメントを考えること。</p>				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	編 1章歯科衛生過程の進め方 (藤澤)	1章 - 歯科衛生過程の概要 歯科衛生過程の各構成要素		
	2	編 1章歯科衛生過程の進め方 -1 (藤澤)	1章 - 歯科衛生海底の各構成要素 1.歯科衛生アセスメント 2.歯科衛生診断		
	3	編 1章歯科衛生過程の進め方 -2 (藤澤)	1章 - 歯科衛生海底の各構成要素 3.歯科衛生計画 3.歯科衛生介入		
	4	編 1章歯科衛生過程の進め方 -3 (藤澤)	1章 - 歯科衛生海底の各構成要素 5.歯科衛生評価 6.記録		
	5	編 1章歯科衛生過程の進め方 -4 (藤澤)	1章 - 歯科衛生海底の各構成要素 症例検討(う蝕治療編)		
	6	編 1章歯科衛生過程の進め方 -5 (藤澤)	2章 - 歯科衛生海底の各構成要素 症例検討(歯周疾患治療編)		
	7	編 4章歯科衛生介入としての歯科保健指導 -1 (松岡)	4章 - 生活習慣の指導 2.喫煙者に対する指導 1 タバコと全身,喫煙が与える影響を考える		
	8	編 4章歯科衛生介入としての歯科保健指導 -2 (松岡)	4章 - 生活習慣の指導 2.喫煙者に対する指導 2 歯周病と喫煙		
	9	編 4章歯科衛生介入としての歯科保健指導 -3 (松岡)	4章 - 生活習慣の指導 2.喫煙者に対する指導 3 喫煙状況のアセスメント 動機づけ支援と面接 1		
	10	編 4章歯科衛生介入としての歯科保健指導 -4 (松岡)	4章 - 生活習慣の指導 2.喫煙者に対する指導 4 禁煙支援のポイント 動機づけ支援と面接 2		
	11	編 4章歯科衛生介入としての歯科保健指導 -5 (松岡)	4章 - 生活習慣の指導 2.喫煙者に対する指導 5 行動科学理論と禁煙支援		
	12	編 4章歯科衛生介入としての歯科保健指導 -6 (松岡)	4章 - 生活習慣の指導 2.喫煙者に対する指導 6 ライフステージにおける DH の禁煙指導 1		
13	編 4章歯科衛生介入としての歯科保健指導 -7 (松岡)	4章 - 生活習慣の指導 2.喫煙者に対する指導 7 ライフステージにおける DH の禁煙指導 2			

14	編 4章保健行動支援のための基礎知識 (松岡)	4章 - 行動変容に関連する理論 行動変容を促す理論の実践
15	編 4章歯科衛生介入としての歯科保健指導 (松岡)	【症例検討】
16	編 4章歯科衛生介入としての歯科保健指導 -1 (松岡)	4章 - 生活習慣の指導 循環器系疾患・高血圧症
17	編 4章歯科衛生介入としての歯科保健指導 -2 (松岡)	4章 - 生活習慣の指導 がん
18	編 4章歯科衛生介入としての歯科保健指導 -3 (松岡)	6章 - 生活習慣の指導 呼吸器系疾患
19	編 4章歯科衛生介入としての歯科保健指導 -4 (松岡)	7章 - 生活習慣の指導 糖尿病・脂質異常
20	編 4章歯科衛生介入としての歯科保健指導 -5 (松岡)	8章 - 生活習慣の指導 免疫疾患
21	全身疾患患者の対応6 (介護講習会1:田中)	配慮を要する者への実習:介護実習1 (認知症などの理解)
22	全身疾患患者の対応7 (介護講習会2:田中)	配慮を要する者への実習:介護実習2 (体位交換, 移乗, 安楽な姿勢)
23	全身疾患患者の対応8 (介護講習会3:田中)	配慮を要する者への実習:介護実習3 (車いすの取り扱い実習)
24	全身疾患患者の対応9 (嚥下訓練1:稲垣)	唾液の機能、成分と嚥下訓練1
25	全身疾患患者の対応10 (嚥下訓練2:稲垣)	舌の運動と味覚と嚥下訓練2
26	全身疾患患者の対応11 (嚥下訓練3:稲垣)	口腔乾燥症と嚥下訓練効果
27	全身疾患患者の対応12 (総括1:松岡)	歯科衛生過程 事例1 (高齢者の生活機能評価)
28	全身疾患患者の対応13 (総括2:松岡)	歯科衛生過程 事例2 (高齢者の認知機能の評価)
29	全身疾患患者の対応14 (総括3:松岡)	歯科衛生過程 事例3 (高齢者歯科と臨床検査 パイタルサイン評価)
30	全身疾患患者の対応15 (総括4:松岡)	歯科衛生過程 事例4 (高齢者歯科と臨床検査 血液検査の評価)

授業科目	歯科予防処置法	担当教員	松本 崇嗣		
対象年次・学期	3年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	45回	時間数	90時間
授業目的	症例に応じた口腔保健管理を理解する。				
到達目標	臨床現場の歯周疾患の治療を説明できる。症例別にプラークコントロールができる。ホワイトニングの知識と実習を体験する。バイオフィルムやプラークから細菌の特徴を説明できる。				
テキスト・参考図書等	・最新歯科衛生士教本「歯周病学」(医歯薬出版) ・最新歯科衛生士教本「微生物学」(医歯薬出版) ・歯科衛生士ベーシックスタンダードホワイトニング(医歯薬出版) ・ケース対応3ステップでみるPCのテクニック(永末書店)				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	80	定期試験 80% レポート 10% 実習・技能点 10%		
	レポート	10			
	小テスト	0			
	提出物	0			
その他	10				
履修上の留意事項	講義・演習・実習、講義と演習、講義と実習の同時進行。 使用する教材を忘れないこと。 提出物の期限を守ること。 積極的に意見をのべること。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	編 1章歯科衛生過程の進め方(松本)	1章ー 歯科衛生過程の概要		
	2	編 4章保健行動支援のための基礎知識	4章ー 行動変容に関連する理論 ②行動変容を促す理論の実践		
	3	編 1章ライフステージに対応歯科衛生介入(症例1)	1章ー④学童期の歯科衛生介入(保護者との関係性、歯列不正部位の保健管理)		
	4	編 1章ライフステージに対応歯科衛生介入(症例2)	1章ー 青年期の歯科衛生介入(う蝕活動性試験、アイデンティティの獲得)		
	5	編 1章ライフステージに対応歯科衛生介入(症例3)	1章ー 成人期の歯科衛生介入(正常な歯肉と病的状態)		
	6	編 1章ライフステージに対応歯科衛生介入(症例4)	1章ー 成人期の歯科衛生介入(歯周病の基本治療)		
	7	編 1章ライフステージに対応歯科衛生介入(症例5)	1章ー 成人期の歯科衛生介入(プロービング検査とスクーリング)		
	8	編 1章ライフステージに対応歯科衛生介入(症例6)	1章ー 成人期の歯科衛生介入(セルフケアとプロフェッショナルケア)		
	9	編 4章保健行動支援のための基礎知識 編 1章ライフステージに対応しか歯科衛生介入(症例7)	4章ー 行動変容に関連する理論 ②行動変容を促す理論の実践 1章ー 老人期の歯科衛生介入(根面う蝕・歯周外科後の保健管理)		
	10	編 1章ライフステージに対応しか歯科衛生介入(症例8)	1章ー 老人期の歯科衛生介入(トンネリング、トライセクションの保健管理)		
	11	編 1章ライフステージに対応歯科衛生介入	歯周病とリスクファクター		
	12	編 1章ライフステージに対応した歯科衛生介入(まとめ)	歯周病学とは		
	13	編 全身疾患と歯周病の基礎知識	2章ー 歯周病 3.歯肉炎と歯周炎の臨床的特徴と全身疾患		
14	編 2章歯周外科の基礎	2章ー 歯周病と歯周外科の適応と処置内容について			

	知識	
15	編 2章インプラントと歯周病の基礎知識	2章ー 歯周病 6.歯周病がインプラントへの影響
16	編 2章配慮を要する者への歯科衛生介入(歯周医学1:松本)	2章ー糖尿病が歯周病リスクになるメカニズム(演習)
17	編 2章配慮を要する者への歯科衛生介入(歯周医学2:松本)	2章ー血管障害が歯周病リスクとなるメカニズム(演習)
18	編 2章配慮を要する者への歯科衛生介入(歯周医学3:松本)	2章ー肥満が歯周病リスクとなるメカニズム(演習)
19	編 2章配慮を要する者への歯科衛生介入(歯周医学4:松本)	早産・低体重児出産が歯周病リスクになるメカニズム(演習)
20	症例検討実習1(橋本)	模擬患者実習におけるオリエンテーション
21	症例検討実習2(橋本)	模擬患者実習1
22	症例検討実習3(橋本)	模擬患者実習2
23	症例検討実習4(橋本)	模擬患者実習3
24	症例検討実習5(橋本)	模擬患者実習4
25	症例検討実習6(橋本)	模擬患者実習5
26	症例検討実習7(橋本)	模擬患者実習後の写真、模型、業務記録の整理
27	編 2章配慮を要する者への歯科衛生介入(歯周医学5:松本)	骨粗鬆症が歯周病リスクになるメカニズム(演習)
28	編 2章配慮を要する者への歯科衛生介入(歯周医学6:松本)	関節リュマチが歯周病リスクになるメカニズム(演習)
29	編 2章配慮を要する者への歯科衛生介入(歯周医学7:松本)	総括:ペリオドンタルメディシン(歯周医学)の評価
30	編 2章配慮を要する者への歯科衛生介入(歯周医学8:松本)	総括:ペリオドンタルメディシン(歯周医学)の評価
31	口腔常在微生物1(長谷部)	口腔の防御体制
32	口腔常在微生物2(長谷部)	細菌を認識するTLR
33	口腔常在微生物3(長谷部)	口腔内微生物の分布
34	プラークバイオフィルム(長谷部)	プラーク細菌の代謝
35	う蝕原性バイオフィルム(長谷部)	甘味料とう蝕誘因性
36	歯周病原性嫌気性菌1(長谷部)	プラーク細菌の歯周病性因子
37	歯周病原性嫌気性菌2(長谷部)	歯周病抗菌薬療法
38	全身疾患とデンタルプラーク細菌(長谷部)	老人性肺炎、糖尿病への関与
39	口腔内感染症(長谷部)	口腔粘膜とヘルペスウイルス
40	口腔外感染症(長谷部)	MRSA、ウイルス、インフルエンザとSARS
41	バイオフィルム問題(長谷部)	デンタルプラークと細菌の関連演習とレポート作成
42	総合演習1(長谷部)	問題演習と解説
43	総合演習2(長谷部)	問題演習と解説
44	総合演習3(長谷部)	問題演習と解説
45	総合演習4(長谷部)	問題演習と解説

授業科目	社会福祉概論		担当教員	渡邊 譲	
対象年次・学期	3年・前期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15回	時間数 30時間
授業目的	社会保障の発展過程およびその基本理念を学ぶとともに、現行の社会福祉・社会保険制度の種類と内容および今後のあり方について学習する。社会福祉の基本的な理念および福祉サービスを提供する際の基本的な考え方について学習する。				
到達目標	社会福祉・社会保険・公的扶助の役割と立場の違いについて説明できる。とりわけ、歯科保健医療とのかかわりの深い医療保険制度の種類と仕組みについて確実に理解し、述べるができる。				
テキスト・参考図書等	・最新歯科衛生士教本「歯・口腔の健康と予防に関わる人間の社会のしくみ2 歯科衛生士と法律・制度」(医歯薬出版) ・プリント ・その他				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	80	定期試験 80% 小テスト 10% レポート 10%		
	レポート	10			
	小テスト	10			
	提出物	0			
その他	0				
履修上の留意事項	教科書・スライド・プリント等を使用予定。 歯科衛生士と社会との関わりについて、想像力を膨らませながら学習する。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	社会保障 1 (藤澤)	社会保障、社会保険、医療保険、医療保険の種類		
	2	社会保障 2 (藤澤)	健康保険の種類、健康保険法、国民健康保険法等		
	3	社会保障 3 (藤澤)	高齢者の医療を確保に関する法律、審査支払機関		
	4	介護保険 1 (渡邊 紀子)	介護保険制度と法規		
	5	介護保険 2 (渡邊 紀子)	地域包括ケアと地域包括支援センターの役割		
	6	介護保険 3 (渡邊 紀子)	介護認定後のケアプラン作成		
	7	介護保険 4 (渡邊 紀子)	施設～種類、目的、施設にいる職種と連携など		
	8	介護保険 5 (町田)	在宅サービス 1～サービスの種類		
	9	介護保険 6 (渡邊 紀子)	在宅サービス 2～訪問看護の役割、連携		
	10	介護保険 7 (真井)	在宅サービス 3～訪問栄養士の役割、連携		
	11	介護保険 8 (渡邊 譲)	在宅サービス 4～歯科衛生士の役割、連携		
	12	介護保険 9 (渡邊 譲)	食支援チームの一員としての歯科衛生士の役割、連携		
	13	年金保険、雇用保険 (藤澤)	年金保険、雇用保険、労働者災害補償保険		
	14	社会福祉 (藤澤)	社会福祉行政～生活保護、障害者・児童福祉など		
15	まとめ (藤澤)	社会保障、介護保険、年金保険、社会福祉などのまとめ			

授業科目	障害者歯科学		担当教員	松岡 円	
対象年次・学期	3年・前期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15回	時間数 30時間
授業目的	障害者に対する歯科診療を理解し、適切な診療補助を行うための知識を習得する。				
到達目標	歯科診療に影響する障害について述べるができる。歯科診療時の障害者への対応法を述べる ことができる。障害者の口腔管理について述べるができる。				
テキスト・ 参考図書等	・最新歯科衛生士教本「障害者歯科」(医歯薬出版)				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	80	定期試験 80% レポート 20%		
	レポート	20			
	小テスト	0			
	提出物	0			
	その他	0			
履修上の 留意事項	教科書、プリントを中心とした授業を行い、随時演習や小テストを行う。 講義中の質問や発言は歓迎しますので、積極的に授業に参加する。 大人としてのマナーを持った授業態度で受講する。				
履修主題・ 履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	1章 障害者の概念	障害の分類、スペシャルニーズとは		
	2	2章 歯科医療で特別な支援が必要な疾患	神経発達症候群		
	3	2章 歯科医療で特別な支援が必要な疾患	運動障害(神経・筋系疾患)		
	4	2章 歯科医療で特別な支援が必要な疾患	感覚障害 音声言語障害 精神および行動の障害		
	5	3章 障害者の歯科医療と行動調整	コミュニケーションの方法 行動療法		
	6	3章 障害者の歯科医療と行動調整	体動コントロール 薬物的行動調整法		
	7	4章 健康支援と口腔衛生管理	障害者本人への支援 口腔健康管理 絵カード作成		
	8	4章 健康支援と口腔衛生管理	特別な配慮が必要な患者の口腔衛生管理 絵カード発表		
	9	5章 リスク評価と安全管理	障害者歯科におけるリスク評価 障害別のリスクと対応 医療安全管理体制		
	10	6章 摂食嚥下リハビリテーションと歯科衛生士の役割	摂食嚥下障害と口腔管理 摂食嚥下障害と栄養管理 摂食嚥下障害の評価法		
	11	6章 摂食嚥下リハビリテーションと歯科衛生士の役割	摂食機能療法 小児期の摂食嚥下障害への対処法		
	12	6章 摂食嚥下リハビリテーションと歯科衛生士の役割	成人期・老年期の摂食嚥下障害の評価と対処法 歯科衛生士の役割と多職種連携		
	13	7章 地域における障害者歯科	障害者歯科と地域医療連携 障害者歯科と関連職種		
14	7章 地域における障害者歯科	保険・医療・福祉のネットワーク 一次医療機関、二次医療機関、三次医療機関 多職種連携(演習)			

授業科目	摂食嚥下		担当教員	藤本 篤士	
対象年次・学期	3年・後期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15回	時間数 30時間
授業目的	傷病や障害あるいは加齢による口腔機能低下を予防する上で、口腔機能のリハビリテーションの重要性が高まっている。摂食・嚥下について認識を深め、摂食・嚥下リハビリテーションに関する基礎知識・技術の習得をする。				
到達目標	摂食・嚥下リハビリテーションの概念やメカニズム、発達・障害の状態を理解し各期の摂食・嚥下障害の特徴や変化、歯科衛生士の実践についての考え方や方法および訓練方法、多職種との連携など摂食・嚥下リハビリテーションに関する基礎的知識・技術を述べるができる。				
テキスト・参考図書等	・最新歯科衛生士教本「高齢者歯科」(医歯薬出版)				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	70	定期試験 70% 小テスト 20% レポート点 10%		
	レポート	10			
	小テスト	20			
	提出物	0			
その他	0				
履修上の留意事項	質疑応答を行う双方向授業 ークショップを実施する。		プリントや板書を中心に講義形式の授業 提出物は期日を守ること。	相互実習、ワ	
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	日本の高齢化と老化 (藤本)	日本の高齢者の現状と加齢に伴う身体的、精神的、心理的変化		
	2	老化と栄養と口腔 (藤本)	日本の高齢化と高齢者の摂食について理解する		
	3	摂食・嚥下の基礎 1 (藤本)	摂食・嚥下に関わる構造の理解		
	4	摂食・嚥下の基礎 2 (藤本)	高齢者の摂食・嚥下障害に関わる因子、加齢による影響を理解する		
	5	摂食・嚥下障害への対応 1 (藤本)	摂食・嚥下障害の検査方法と治療について理解する		
	6	摂食・嚥下障害への対応 2 (藤本)	高齢者の摂食・嚥下障害に応じた食物形態、栄養管理 NST について理解する		
	7	高齢者の誤嚥 (藤本)	高齢者の誤嚥について理解する		
	8	誤嚥の評価と誤嚥防止のための機能訓練 (藤本)	誤嚥について評価と誤嚥予防のための機能訓練		
	9	摂食・嚥下リハビリテーションの概論 (小山田)	摂食・嚥下リハビリテーションの進め方には共通の概念があることを理解する		
	10	摂食・嚥下機能の発達、小児の摂食・嚥下障害 (小山田)	口腔領域の形態成長と関連して機能発達の過程を理解する。小児の摂食・嚥下障害を引き起こす要因、障害別の特徴を理解する		
	11	リスクマネジメント、認知症への対応 (小山田)	リスクマネジメント、摂食リハビリテーションと口腔のケア		
	12	在宅訪問歯科診療、介護施設における摂食・嚥下リハビリテーション (小山田)	在宅における摂食・嚥下リハビリテーションの特徴、歯科衛生士の役割、症例		
	13	高齢者に関わる医療と介護 (小山田)	在宅訪問診療の概要、歯科衛生士が関わる介護保険の概要		
	14	摂食・嚥下リハビリテーションにおける歯科衛生ケアプロセス (小山田)	歯科衛生ケアプロセス、ケアプロセスの展開(実習)、アセスメント、計画、実施・記録、評価		
15	まとめ (小山田)	摂食・嚥下に関する確認問題の演習と解説			

授業科目	総合演習		担当教員	藤澤 雅子	
対象年次・学期	3年・通年		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態		授業回数	30回	時間数	60時間
授業目的	1年、2年で習得した知識や技能、臨床実習で習得した技術をもとに、総合的理解力や判断力を養う。				
到達目標	診療室での医療安全管理や診療時の救急処置を適切に行うための方法や対応について述べることができ、実践できる。 歯科衛生士国家試験に出題される問題を解くための知識を再確認する。				
テキスト・参考図書等	・校内模擬試験問題・解説書 ・2023年度対応 歯科衛生士国家試験対策集 ・徹底分析年度別 歯科衛生士国家試験問題集 ・最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論」(医歯薬出版) ・最新歯科衛生士教本「顎・口腔粘膜疾患 口腔外科・歯科麻酔」(医歯薬出版)				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	80	定期試験 80% レポート 10% 出席点 10%		
	レポート	10			
	小テスト	0			
	提出物	0			
その他	10				
履修上の留意事項	講義では、知識を深める。 演習では、判断力や理解力をつける。 毎回、授業で使用する教本が違うので、指示された教本を忘れずに持参する。 レポートの提出は期限厳守、評価に加味する。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	スポーツ歯科1(川西)	スポーツ歯科の基礎知識		
	2	スポーツ歯科2(川西)	マウスガードの必要性		
	3	スポーツ歯科3(川西)	マウスガードの作成過程		
	4	スポーツ歯科4(橋本)	マウスガード作製実習1		
	5	スポーツ歯科5(橋本)	マウスガード作製実習2		
	6	スポーツ歯科に関連する知識(藤澤)	マウスガード作製時の注意事項		
	7	口腔機能訓練1(星)	口腔機能訓練とは		
	8	口腔機能訓練2(星)	口腔習癖の種類と指しゃぶり指導		
	9	口腔機能訓練3(星)	舌突出癖の発育への影響 構音指導とMFT、舌突出癖の指導		
	10	口腔j機能訓練に関連する知識(藤澤)	口腔機能訓練に必要な基礎知識		
	11	災害時の保健活動1(荒谷)	被災地での歯科保健活動		
	12	災害時の保健活動2(荒谷)	普通救命処置実習1		
	13	災害時の保健活動3(荒谷)	普通救命処置実習2		
	14	災害時の歯科保健活動4(藤澤)	災害時の歯科保健活動		
	15	口腔マネジメント1(藤澤)	歯科保険制度における歯科診療報酬の概要		
	16	口腔マネジメント2(杉田)	歯科治療と予防歯科 診療報酬の違い1		
	17	口腔マネジメント3(杉田)	歯科治療と予防歯科 診療報酬の違い2		
	18	口腔マネジメント4(杉田)	歯科治療と予防歯科 う蝕予防編		
	19	口腔マネジメント5(杉田)	歯科治療と予防歯科 歯周治療編		
20	歯科理工学1(池田)	歯科衛生学科材料の性質			

21	歯科理工学 2 (池田)	印象材 (総論、アルジネート、寒天)
22	歯科理工学 3 (池田)	印象材 (ゴム質印象材、その他)
23	歯科理工学 4 (池田)	レジン材
24	歯科理工学 5 (池田)	レジン充填材、修復用セメント材
25	歯科理工学 6 (池田)	合着材
26	歯科理工学 7 (池田)	石膏、金属材料
27	歯科理工学 8 (池田)	材料学のまとめ
28	まとめ 1 (藤澤)	総合問題の解き方、解答の導き方演習 1
29	まとめ 2 (藤澤)	総合問題の解き方、解答の導き方演習 2
30	まとめ 3 (藤澤)	総合問題の解き方、解答の導き方演習 3

授業科目	卒業研究		担当教員	藤澤 雅子	
対象年次・学期	3年・通年		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15回	時間数 30時間
授業目的	学生の興味・将来の方向性に沿って、テーマを設定し、計画・立案・研究・まとめ(発表)の活動を通して、自ら研究する意欲と学び方を身につける。				
到達目標	自分の興味、方向性に即して研究テーマを設定できる。EBM/EBHの概念を説明できる。研究の計画・立案ができる。実験・調査などの研究が実施できる。実験・調査などの結果を整理・分析できる。結果分析に基づき、新たな課題を抽出、提起できる。関連の研究結果を発表できる。				
テキスト・参考図書等	・参考書：日本歯科衛生士学会学術雑誌(日本歯科衛生士学会) 北海道歯科衛生士学会学術大会報告書(北海道歯科衛生士会)				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	プレゼンスライド 25% プレゼン能力 25% 卒業研究抄録の完成度 25% 出席点 25%		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	0			
その他	100				
履修上の留意事項	研究テーマを検討 研究計画に基づく研究の実施報告 研究データの整理、分析 研究発表 自発的に課題に取り組む姿勢				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	卒業研究の概要 1 (藤澤)	主な研究方法、症例研究、記述研究、調査研究、実験研究など		
	2	研究方法の概要 1 (藤澤)	研究の進め方 1～文献を読む ・研究テーマ、目的、対象、結果、考察、まとめ		
	3	研究方法の概要 2 (藤澤)	研究の進め方 2～研究の手順 ・研究テーマ、目的、対象、結果、考察、まとめ		
	4	研究方法の概要 3 (藤澤)	研究の進め方 3～研究計画の検討 ・テーマと対象および方法の検討		
	5	研究の実施 1 (藤澤)	研究テーマの情報収集・情報処理 1～パワーポイントの使い方		
	6	研究の実施 2 (藤澤)	研究テーマの情報収集・情報処理 2～目的、結果、考察の検討 1		
	7	研究の実施 3 (藤澤)	研究テーマの情報の整理・分類 1～目的、結果、考察の検討 2		
	8	研究の実施 4 (藤澤)	研究テーマの情報の整理・分類 1～結果スライド作成		
	9	研究結果のまとめ (藤澤)	プレゼンテーション用のスライド作成 1		
	10	研究結果のまとめ (藤澤)	プレゼンテーション用のスライド作成 2		
	11	研究中間発表会 (松本)	研究成果中間発表		
	12	中間評価に基づく研究の再検討 (松本)	中間評価に基づく研究内容の再検討と調整		
	13	抄録作成 (松本)	抄録の書き方の解説、抄録作成		
	14	研究発表会 1 (松本)	研究発表:プレゼンテーション 1		
15	研究発表会 2 (松本)	研究発表:プレゼンテーション 2			

授業科目	臨地・臨床実習	担当教員	橋本 李奈		
対象年次・学期	3年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	180回	時間数	360時間
授業目的	歯科衛生士としての必要な資質・能力を磨くため、歯科診療室での歯科衛生士の業務を見学する。障害児の歯科治療の補助、介助を実習する。				
到達目標	歯科診療の補助、介助がスムーズに行える。患者別に SOAP 方式で業務記録を作成することができる。				
テキスト・参考図書等	歯科医院実習：臨床実習帳、メモ帳、筆記用具、白衣、エプロン、実習靴、グローブ、マスク、スケーラーセット、顎模型、口腔ケアセットなど				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	*評価基準 A:優れている(助言なしでもほぼできる) B:できるが発展性がない(多くの助言・指導があればできる) C:劣っている(多くの助言・指導があってもできない) D:見学・実習をしていない(出席日数不足) *評価項目 医療従事者としての基本姿勢、態度 月別実習項目の知識 月別実習項目の技能 ～ をそれぞれ評価後、総合評価する：A(80～100点)、B(70～79点)、C(60～69点)、D(59点以下)		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	0			
その他	100				
履修上の留意事項	歯科医院の診療室で主に見学実習を行う。 肢体不自由児療育センターで主に障害児の対応を見学する。 体調管理に気を付ける(欠席、遅刻、早退は厳禁)。 実習生のマナーとして:清潔な白衣、エプロン、実習靴、マスク、グローブを身につける。化粧・毛染めはしない、頭髪、爪、ピアスは外す。挨拶、返事、丁寧な言葉遣いを心がける。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	臨床実習			
	2	歯科医院実習	治療計画に従って、診療の介助ができる。 治療の流れにそって、診療の補助ができる。		
	3	病院歯科実習	全身疾患をもった患者の歯科治療業務を実習する。 多職種の業務を理解し、連携を図れる。		
	4				
	5	臨地実習			
	6	医療療育センター歯科実習	肢体不自由児の歯科治療の補助・介助をする。		
	7				
	8	計 56 日間			

授業科目	衛生行政・関係法規		担当教員	田中 麻衣	
対象年次・学期	3年・後期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	10回	時間数 20時間
授業目的	歯科衛生をはじめ、医療・保健・福祉に関する法規や行政の仕組み、社会福祉や社会保険制度など医療保障の施策について学ぶ。				
到達目標	衛生行政の目的および医療関係法規の概要を述べることができる。歯科衛生士法の目的、内容について述べることができる。				
テキスト・参考図書等	・最新歯科衛生士教本「歯科衛生士と法律・制度」(医歯薬出版) ・プリント ・その他				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	60	定期試験 60% レポート 20% 提出物 20%		
	レポート	20			
	小テスト	0			
	提出物	20			
その他	0				
履修上の留意事項	教科書・スライド・プリント等を使用予定。 歯科衛生士というプロフェッショナルを支える制度的なバックボーンを学ぶ機会となる。 社会に出てから学ぶ機会は少ないので、プロとして最低限の知識を修得するよう心掛ける。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	歯科衛生士と法律 (藤澤)	衛生行政の目的と組織		
	2	歯科衛生士と法律 (藤澤)	歯科衛生士法について		
	3	歯科衛生士と法律 (藤澤)	歯科衛生士の業務・諸手続		
	4	歯科衛生士と法律 (藤澤)	歯科医師法・歯科技工士法		
	5	歯科衛生士と法律 (藤澤)	歯科口腔保健の推進に関する法律・医療法		
	6	医療関係職種 (藤澤)	歯科医療と関わる医療関係職種にかかる法律		
	7	医療関係職種 (藤澤)	歯科医療と関わる医療関係職種にかかる法律		
	8	その他の関係法規 (藤澤)	薬事衛生法規		
	9	その他の関係法規 (藤澤)	保健衛生法規、予防衛生法規		
10	まとめ (小畑)	総まとめ			

授業科目	高齢者歯科学		担当教員	大橋 伸英	
対象年次・学期	3年・前期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15回	時間数 30時間
授業目的	歯科衛生士として高齢者歯科の基礎と臨床において必要な知識・技術を習得する。				
到達目標	高齢者の口腔の働き、役割の重要性を述べるができる。高齢者の心身の・社会的特性を述べるができる。高齢者の歯科治療の理論と実践ができる。高齢者の保健指導および要介護高齢者への対応ができるようにする。				
テキスト・参考図書等	・最新歯科衛生士教本「高齢者歯科」(医歯薬出版)				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	70	定期試験 70% 授業・調理実習時の出席点 30%		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	0			
その他	30				
履修上の留意事項	基本的に講義を中心とするが 高齢者または高齢者歯科に関するテーマを挙げ、ディスカッションすることもある。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	高齢者をとりまく社会と環境 (山崎)	高齢者歯科と歯科衛生士の役割、高齢者をとりまく社会・環境について学ぶ		
	2	高齢者をとりまく社会と環境 (山崎)	高齢者の居住形態・施設および入院設備の特徴について学ぶ		
	3	加齢による身体的・精神的变化と疾病 (山崎)	加齢に伴う身体的機能、精神・心理的变化について学ぶ		
	4	加齢による身体的・精神的变化と疾病 (山崎)	高齢者に多い全身疾患・障害および口腔疾患 1.主たる死因となる疾患について学ぶ		
	5	加齢による身体的・精神的变化と疾病 (山崎)	高齢者に多い全身疾患・障害および口腔疾患 2.高齢者に特有な口腔の疾患について学ぶ		
	6	高齢者の状態の把握 (山崎)	高齢者の生活機能の評価について学ぶ		
	7	高齢者の状態の把握 (山崎)	高齢者歯科と臨床検査について学ぶ		
	8	高齢者の状態の把握 (山崎)	高齢者の栄養状態と薬剤服用について学ぶ		
	9	高齢者に対する食指導・食支援 1 (大島)	障害に応じた食物形態、高齢者の栄養管理		
	10	高齢者に対する食指導・食支援 2 (大島)	障害に応じた食物形態、栄養管理(実習を含む)		
	11	口腔のケア (瀧川)	高齢者に対する口腔のケアについて学ぶ。 1.口腔のケアにおける高齢者の特徴 2.口腔のケア用品 3.要介護高齢者の訪問保健指導の実際 4.臨床現場における歯科衛生士の役割		
	12	口腔のケア (瀧川)	1.急性期の口腔衛生管理 2.留意すべき全身疾患と口腔衛生管理 3.要介護高齢者における口腔のケアの意義、4.要介護高齢者に対する歯科治療の目標設定と目安		
	13	口腔のケア 実習 (瀧川)	口腔ケアの実際：器質的、機能的口腔のケア		
	14	高齢者に関わる医療と介護 (瀧川)	1.在宅訪問診療の概要 2.歯科衛生士が関わる公的介護保険の概要 3.かかりつけ歯科の役割 4.訪問看護と歯科の役割		
15	まとめ (瀧川)	問題演習と確認			

